

平成 29 年産 紀南の梅産地情報

2017/07/21

「今年産の生育概況」

1. 今年の梅の開花は、1 月末から 2 月にかけて気温が低く、南高の満開は 2 月 16 日と平年より 3 日程度遅くなった。授粉樹との開花はほぼ揃ったが、開花期間中の気象変動が大きく、着果数は前年・平年よりやや少なくなった。また、3 月以降も平年を下回る気温で推移したため、南高の実肥りは平年より 10 日程度遅れた。4 月中旬には低温、強風雨の影響で、かいよう病が多発し、秀品率を低下させた。出荷は、小梅で 5 月 14 日から、古城は 5 月 18 日から、主力の南高は 5 月 29 日からそれぞれ出荷が始まったが、当初からの生育遅れと、4 月下旬からの少雨により実肥りが悪く、小玉傾向での出荷となった。
6 月に入っても降雨の気配は無く、肥大の鈍りから出荷量は伸び悩んだ。
2. 生産量は、小梅は前年・平年並みとなった。古城では前年並みで、平年より少なくなった。南高では前年よりやや少なく、平年より少なくなった。

7/14 日時点（生産見込量：ト）

品 種	29 年産	28 年産	平 年	前年比	平年比
小 梅	803	847	856	95%	94%
古 城	543	577	706	94%	77%
南 高	17,741	20,813	23,069	85%	77%
在来系	477	483	568	99%	84%

3. J A 紀南の安全・安心対策は 15 年目に入り、全出荷者の生産履歴の安全確認、生産者毎の出荷物サンプル保管、農薬残留分析自主検査、適正農業規範(G A P) の点検を実施した。

「産地の課題と方向」

近年予想を上回る気象変動が頻発する中で、梅生産・農業経営面においては作柄を安定させることが最重点課題となる。授粉対策や山畑等不安定園地での品種の見直し、老木園の改植を積極的に進めることが重要である。